

## 条文へのプロセス

第 26 回市民委員会で、条例の骨子をどのように考えていきたいか個々に付箋に書き出し、5つの班に分かれて話し合いました。

出たキーワードを見てみると、いくつかの班から共通の言葉が出ていて、「自己決定」は4つの班から出ていました。5つの班から出たキーワードを、関連性をみながら整理してみると、「子どもの主体」を大きな柱として、それ以外に、下図のとおり大きくとらえて7つのグループとなりました。このグループ分けは、骨子づくりの大きな柱立てとしてとらえるためのグループ分けとなります。

第 27 回市民委員会においては、この7つのグループ分けの仕方がこれでよいのか、まとめてもよいグループはないか等話し合いました。

色々な意見が出ましたが、5つの色分けしたグループに整理しました。次回の市民委員会から、各委員がこの5グループに分かれて、条文化への骨子づくりに向けて、話しをさらに進めていくこととなります。

今回の市民委員会でとりあえず5つのグループ化をしましたが、今後このグループの分け方や内容自体も話し合いの中で変化していくことが確認されました。

